

このコーナーは、
営農指導員から、農業のちょっと
したコツを、お知らせします。

野菜作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 譲
わかやま ゆずる

季節の変わり目である10月は、
気候が大きく変動しやすい月で
す。野菜を健やかに育てるため
は、かん水（水やり）が非常に重
要です。この時期に生育している
野菜は、適切な水分を与えること
で順調に成長します。日の短さや
気温の変化に応じた、かん水の
コツを身に付けることで、新鮮で
おいしい野菜を収穫できます。

成長段階に応じたかん水

植物にとって水は命の源です
で、与え方には大きな注意が必要
です。かん水の頻度や量は、成長
段階によって変わるため、それぞ
れの段階で適切な量を理解し、野
菜の状態を確認しながら行いま
しょう。苗の時期には水分を多く
必要としますが、根が張る成長期
には水の与え過ぎが根腐れの原因
になりますので、注意が必要です。
また、季節や気温の影響も無視
できません。施設内（ハウス）で
は乾燥しがちなため、かん水のタ
イミングが早まることもありま
す。野菜の種類や環境に合わせた
かん水を心掛け、野菜が最良の状
態で成長できるよう配慮しまし
ょう。

日中と夜間のかん水の違い

日中と夜間では、気温や湿度に
大きな差があるため、野菜のかん
水もそれに応じた注意点がありが
す。

日中は太陽光による蒸散が激し
く、水分が早く失われるため、か
ん水は朝早くに行いましょう。

一方、夜間は蒸発しにくく、水
分が土に長くたまるため、かん水
は控え目にしましょう。

また、昼夜の温度差が激しい時
は、野菜にとってストレスになる
ため、土の状態をよく観察し、過
剰なかん水は避けることが大切で
す。適量の水を、野菜の成長に合
わせてあげることが、実り豊かな
収穫への秘訣になります。

土の湿り気をチェックする方法

土の湿り気をチェックすること
は、かん水で最も重要な要素で
す。土の表面だけではなく、指を
土に差し込んで、深さ5cm程度の
地点で土の湿り気を確認しまし
ょう。土の表面は乾いていても、中
は湿っている場合があります。表
面だけに惑わされず、定期的に土
の深部の状態をチェックすること
が肝心です。

この方法によって、野菜が必要
とする水分を正確に把握し、最適
なかん水を行うことができます。

花作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓
ながおく けい

今回は本市のように比較的低温
な気候でも栽培可能な品目とし
て、草花では新テッポウユリ、枝
物花木ではサクラとモモを紹介し
ます。

1 新テッポウユリの栽培

このユリは①生育が早い②草勢
が強い③品質がテッポウユリに比
べても劣らず良好であるという、
3つの特徴があります。

生育が早いので、晩秋に播種（種
まき）して翌年の7〜9月頃に開
花・出荷ができます。

さらに初年に1回切り花を行っ
た後、次年もその球根を利用して
切り花ができるため、球根類とし
ては種苗費を抑えることができる
という経営的な特徴もあります。

播種は、11月にハウス内の播種
床へ散播するか、プラグトレーに
播きます。

定植（苗の植え付け）は遅霜の
恐れがなくなった5月上旬に行い
ます。連作障害を防ぐため、3年
ごとに圃場を替えるようにしま
しょう。

圃場には定植の約20日前に苦土
石灰と基肥を施用して畝を作っ
ておきます。

生育は旺盛ですが、他のユリ類
と同様に葉枯病に弱いので、定期
的な予防防除が必要です。

2 枝物花木の栽培

多くの労力や栽培経費を必要と
せず、遊休地を活用できる花きと
して代表的なものがサクラとモモ
になります。

苗を植え付けてから3〜4年ほ
ど株養成しないと切り枝として出
荷できませんが、一度植え付け
ると10年以上据え置きで切り枝がで
きる省力的な花きです。

秋植えは11月頃、春植えは3月
頃に苗を植え付けます。

肥料は多く必要としませんが、
施用する場合は鶏糞を年に2回く
らい撒きます。

病害虫による被害は多くはあり
ませんが、カイガラムシがつくこ
とがありますので、注意が必要で
す。



▲新テッポウユリ

問い合わせ

農業振興課 農業振興係
0824-731131